

伊方町議会第67回定例会に係る一般質問通告内容

質問者	質問の大綱	質問の相手
田村 義孝 議員	1 災害時の電源について	町 長
質問の要旨		
<p>近年、異常気象や災害の増加により、停電も今後、増えていくように思います。町内のある地区においては、今年だけで4回、最長13時間の停電がありました。今まで、四国電力さんがオール電化を推進していたことから、ガスでなく電気だけの世帯もあると思います。今年の三崎・瀬戸地区に雪が積もった時も高齢者の場合、特に家から出れず、灯油の配達も困難で灯油を調達することも難しく、不安な日々を過ごした方もいたようです。エアコンや電気ストーブで電気がつながっていれば暖をとることもできます。</p> <p>また、亀ヶ池温泉に宿泊のお客様が連泊でお泊りの時に台風で電気がしばらく復旧しなくて、原発をかかえる電気の町、伊方町なのに公共施設での非常電源もなく不安な時間をすごしたという話も聞きました。</p> <p>そこで、3点についてお尋ねいたします。</p> <p>① 現在、町内の公共施設の停電時の非常電源の確保についてはどのように対処していますか。</p> <p>② 町内には合計58基の大型風車があります。伊方町は「電気の町」であります。町も出資している瀬戸ウインドヒルの風車のリプレイスもはじまる予定です。防災の観点から非常時の代替電源として風車で発電した電気を使うことはできないでしょうか。これが実現すれば、他の施設でも転用しやすいと思います。</p> <p>また、このような場合、自営線として整備するのが一般的で送電線の使用の問題等もありますが、わが町は伊方原発を有し、四国電力さんとも良好な関係を長年に渡り築いてきました。このようなことから他の地域に比べて導入しやすい条件が整っているように思います。</p> <p>環境省の補助事業の中に「地方公共団体と民間企業との共同により、地域の再生可能エネルギー・蓄電池・自営線等を活用した、再生エネ自給率最大化と防災力向上を同時実現する自立・分散型エネルギーシステム構築のための計画策定や設備等導入に対して支援を行う」というものもありますが、これらも活用して財源の負担も減らせると思います。「電気の町 伊方町」で住民や訪れる人が安心してすごせるよう、町の資源である風車を活用できないでしょうか。</p>		